

中間評価報告書

枚方市
令和5年6月

目次

第1章	枚方市スポーツ推進計画の中間評価にあたって	1
	1. はじめに	
	2. 計画の位置づけ	
	3. 中間評価の趣旨	
第2章	スポーツを取り巻く環境	2
	1. 社会情勢の変化	
	2. 国・大阪府の動向	
	(1) 第3期スポーツ基本計画の策定	
	(2) 第3次大阪府スポーツ推進計画の策定	
	(3) その他の計画等	
	3. 枚方市のスポーツの現状	3
	(1) 枚方市の人口と少子高齢化の状況	
	(2) 枚方市におけるスポーツの現状	
	①市民のスポーツに関する意識と行動	5
	②小・中学校にけるスポーツ活動	13
	③関係団体のスポーツの状況	16
	④スポーツ推進委員の状況	17
	⑤スポーツの指導者の状況	18
	4. これまでの主な取組と課題	20
	5. 後期に向けた課題整理	21
第3章	枚方市のスポーツ推進に向けた取組	24
	1. 基本理念	
	2. 後期に取り組むべき施策	

第1章 枚方市スポーツ推進計画の中間評価にあたって

1. はじめに

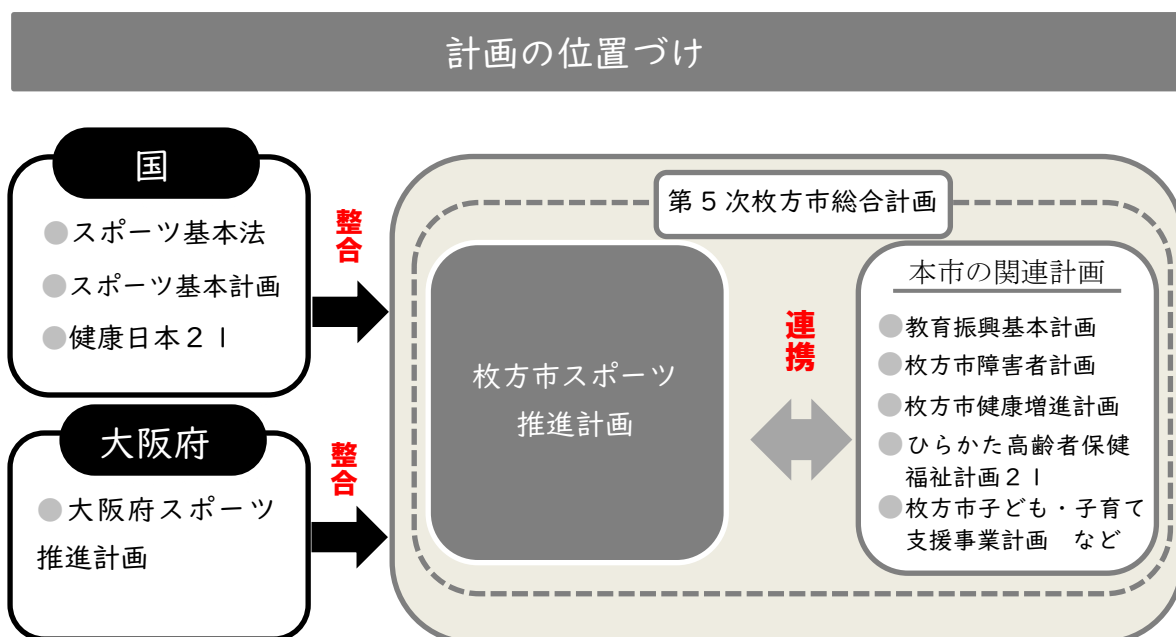
本市では、平成28年度に策定した「枚方市スポーツ推進計画」（以下、「現行計画」という。）に基づき、令和9年度までの11年間の推進期間として、“だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康を増進し、人と人との交流を深めることを支える”ことを基本理念に取り組みを進めてきました。本計画の中間年度となる令和4年度に、中間評価を実施することとします。

2. 計画の位置づけ

現行計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画で、国のスポーツ基本計画の考え方を踏まえ、本市のスポーツに関する施策を関係団体や機関などと連携を図りながら、総合的に推進するためのものです。

また、平成28(2016)年3月に策定した「第5次枚方市総合計画」におけるスポーツ推進に関する施策目標（「誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち」）のための取組を具体化する分野別行政計画に位置づけられます。

さらに、「スポーツ基本計画」「大阪府スポーツ推進計画」をはじめ、「健康日本21」（厚生労働省）や本市の関連する計画と連携して施策を推進しています。



3 中間評価の趣旨

現行計画の推進期間である平成29(2017)年度から令和9(2027)年度までの中間年度となる令和4年度に、市民アンケート調査結果やそれまでの取組状況を総括し、社会情勢の変化など、スポーツを取り巻く環境の変化を踏まえ、後期に取り組むべき方向を定めていきます。

第2章 スポーツを取り巻く環境

1 社会情勢の変化

スポーツ施策を推進するうえで、直面している課題やこの間の社会情勢の変化について、以下のとおり列举します。

- 人口減少の一層の加速や少子高齢化
- グローバル化の進展、ICT（情報通信技術）などの技術革新
- 多様性を尊重する共生社会の実現に向けた取組の推進
- 新型コロナウイルス感染症の拡大
- ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの開催によるスポーツへの関心の高まり
- 健康意識の高まりや、ライフスタイルの変化、各年齢層・性別等のライフステージに応じたスポーツへのニーズの多様化

2 国・大阪府の動向

(1) 第3期スポーツ基本計画の策定【文部科学省】（計画期間：R4～R8）

①スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」

スポーツをつくる/はぐくむ	社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。
スポーツであつまり、ともに、つながる	様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。
スポーツに誰もがアクセスできる	性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成

②今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

- ①多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ②スポーツ界におけるDXの推進
- ③国際競争力の向上
- ④スポーツの国際交流・協力
- ⑤スポーツによる健康増進
- ⑥スポーツの成長産業化
- ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり
- ⑧スポーツを通じた共生社会の実現
- ⑨担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- ⑩スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
- ⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- ⑫スポーツ・インテグリティの確保

(2) 第3次大阪府スポーツ推進計画の策定（計画期間：R4～R8）


【基本理念】

- ◆誰もが「する」「みる」「ささえる」を通じスポーツを楽しむ
- ◆スポーツの楽しさを共有し、楽しさがあふれる大阪のまちへ
- ◆スポーツの楽しさを通じ、人とまちが活性化し、ともに成長する

大阪・関西万博やSDGsなどの視点を盛り込みつつ、スポーツ資源を観光や食等の大阪の“強み”と組み合わせた、幅広い分野にわたってスポーツとともに人とまちが成長する施策を展開

(3) その他の計画等

国のスポーツ基本計画や大阪府のスポーツ推進計画のほか、障害者のスポーツ活動の推進や、ガバナンス向上を通じた競技団体等の組織体制の充実、スポーツ実施率向上のための個別計画などが策定されました。

- 「障害のある人のスポーツ活動を支援する～障害者のスポーツ活動推進プランから」の策定（平成31(2019)年3月）
- スポーツ団体ガバナンスコード（一般スポーツ団体向け）の策定（令和元(2019)年8月）
- 「スポーツ実施率向上のための行動計画」の策定（平成30(2018)年9月） 

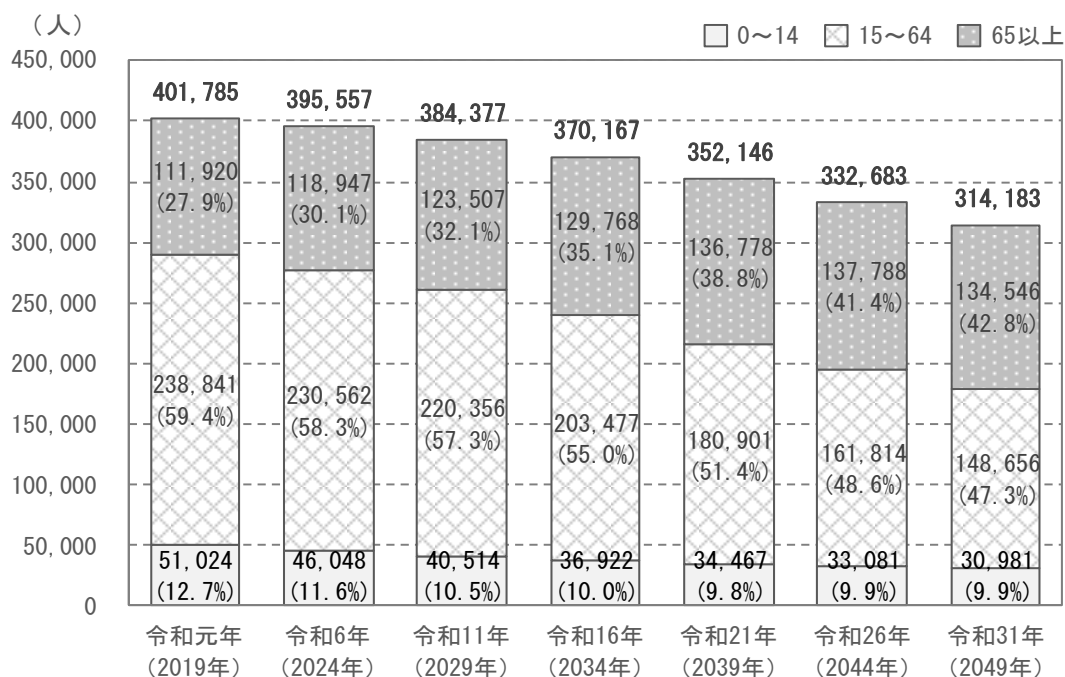
このように国・府において、施策の重要な方向性などを示す3期目のスポーツに関する計画が策定され、スポーツのニーズが多様化する中、スポーツがより幅広い分野との関わりをもって推進されています。そのため、スポーツの果たす役割や意義がますます重要となっています。

3 枚方市のスポーツの現状

(1) 枚方市の人口と少子高齢化の状況

本市の近年の人口は40万人台と減少傾向で推移してきましたが、令和2年に40万人を割り込み、令和4年10月末日時点では396,954人となるなど減少傾向にあります。将来人口は、減少傾向で推移すると予想されています。

また、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少傾向、高齢人口（65歳以上）の割合は増加傾向となっています。



資料：枚方市人口推計調査（令和2年2月策定）

(2) 枚方市におけるスポーツの現状

現行計画の中間評価にあたり、市民アンケート調査のほか、(公財)枚方市スポーツ協会の加盟団体、スポーツ少年団の関係団体、スポーツ推進委員やスポーツ指導者などを対象にアンケート調査を実施しました。また、令和3年度に市内小中学校を対象に行った全国体力・運動能力、運動習慣等調査(以下、「令和3年度運動能力等調査」)から、子どもの体力の状況把握・分析、スポーツに関する意識の調査結果を記載しています。概要は以下のとおりです。

【調査概要】

調査種別	市民	関係団体
対象	市内在住の18歳以上の市民2,000人	(公財)枚方市スポーツ協会加盟団体及びスポーツ少年団 計72団体
調査実施時期	令和4年9月26日(火) ～10月11日(火)	令和4年9月26日(火) ～10月11日(火)
調査方法	郵送調査及びオンライン調査	郵送調査等
有効回答数	928件(46.4%)	48件(66.7%)
調査種別	スポーツ推進委員	スポーツ指導者
対象	スポーツ推進委員47人	枚方市スポーツ少年団指導者及び公立中学校部活指導教員294人
調査実施時期	令和4年9月26日(火) ～10月11日(火)	令和4年9月26日(火) ～10月11日(火)
調査方法	郵送調査等	郵送調査等
有効回答数	43件(91.5%)	209件(71.1%)

【目標指標】

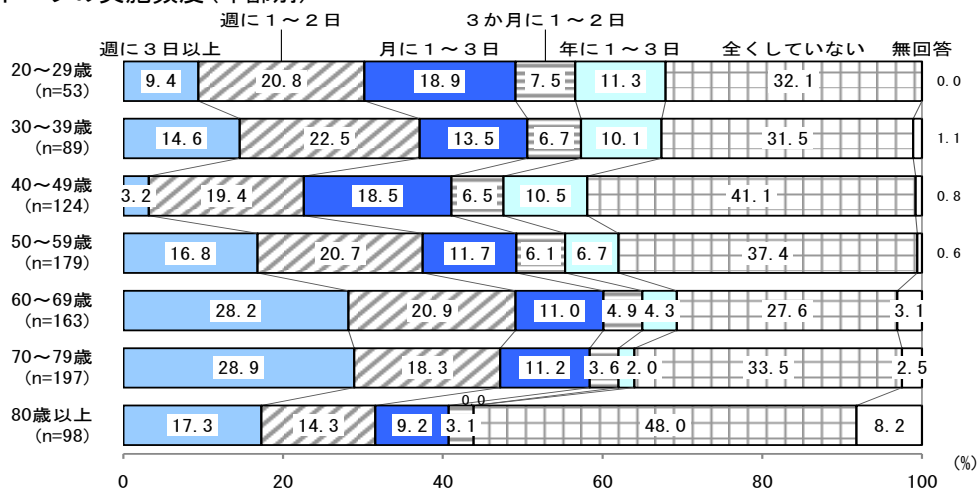
現行計画では、進行管理のための指標を設定し、到達度を測ることとしており、計画策定時(平成28年度)、今回調査時(令和4年度)、令和9年度末までの目標は以下のとおりです。

指標	平成28年度 時点※1	令和4年度 時点※2	令和9年度末 までに
週1日以上スポーツに取り組む成人の割合	37.6%	36.4% (1.2ポイント減)	65%程度
週3日以上スポーツに取り組む成人の割合	17.4%	16.9% (0.5ポイント減)	30%程度

※1「平成28年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」の結果に基づく

※2「令和4年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」の結果に基づく

◆ 図 スポーツの実施頻度(年齢別)



上記のとおり今回の市民アンケート調査結果より、令和4年時点でスポーツ実施率が週1日以上スポーツに取り組む成人の割合は、1.2ポイントの減少、週3日以上スポーツに取り組む成人の割合は、0.5ポイント減少となりました。年齢別にみると、「週に1回以上」は60歳台が49.1%と最も高く、次いで70歳台が47.2%となっています。

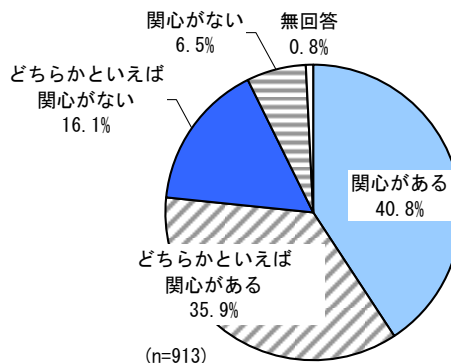
①市民のスポーツに関する意識と行動

市民アンケート調査の結果から、「運動やスポーツに関するアンケート調査」の結果は次のとおりです。

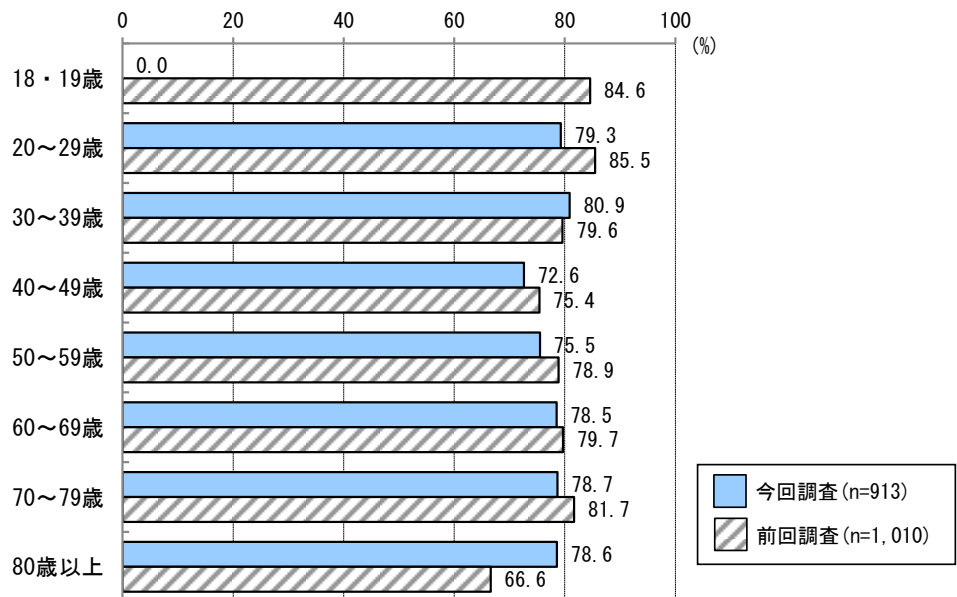
(ア) スポーツに対する関心度

スポーツに対する関心割合は、全体では76.7%で、どの世代においても7割以上を占めています。(図1-1)平成28(2016)年度調査(以下「前回調査」という。)に比べ、80歳以上の年代の関心度が66.6%から78.6%に上昇しましたが、一方で、30歳代を除く各年代では関心割合がやや低下している状況です。(図1-2)運動やスポーツを始めようと思えるきっかけとしては、「友人・家族の誘い」が20歳代63.0%、30歳代55.8%、40歳代55.6%と高く、60歳代では「興味のあるスポーツ教室の開催」が36.7%、70歳代では「医師からの指導」が22.1%となりました。(図1-3)

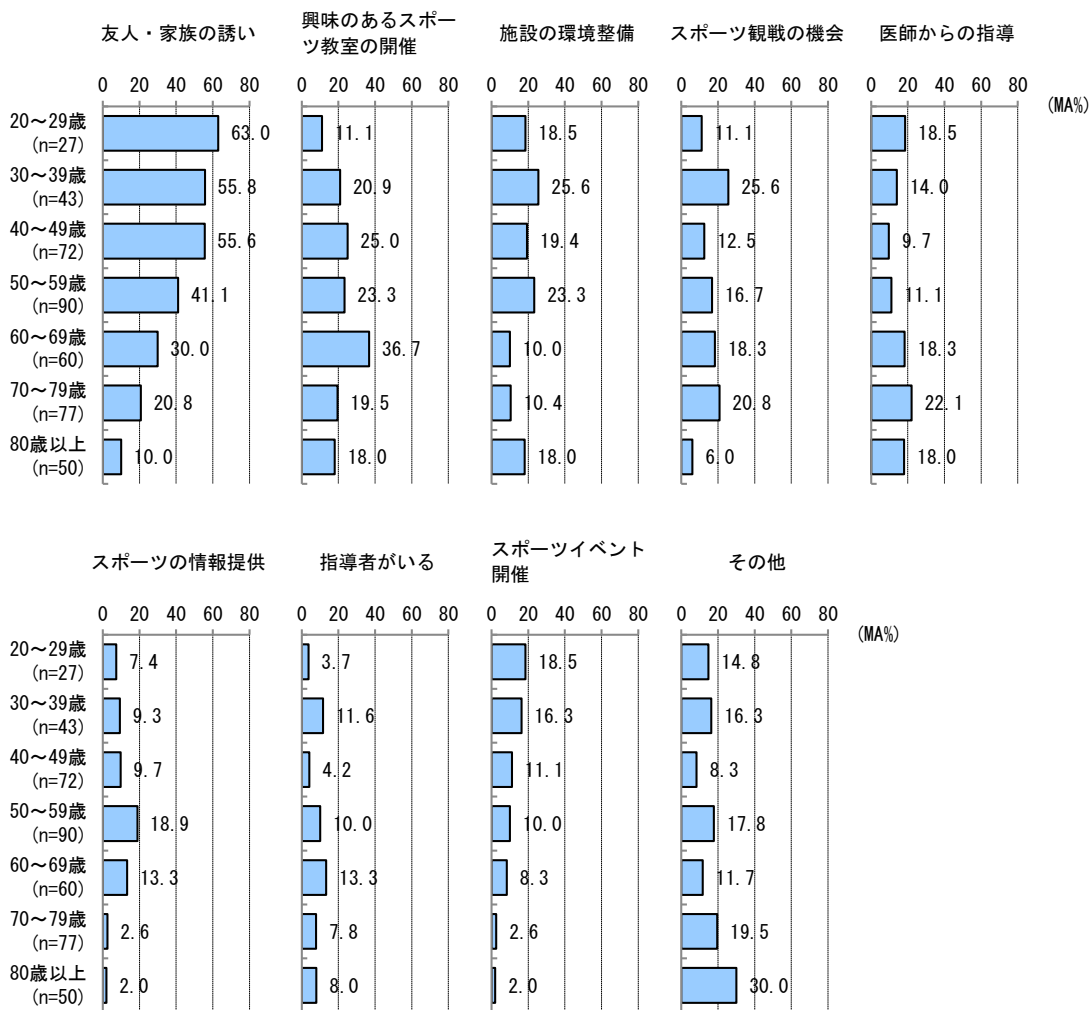
◆ 図1-1 スポーツに対する関心度



◆図1-2 スポーツに対する関心度(年代別)



◆図1-3 運動やスポーツを始めようと思えるきっかけ



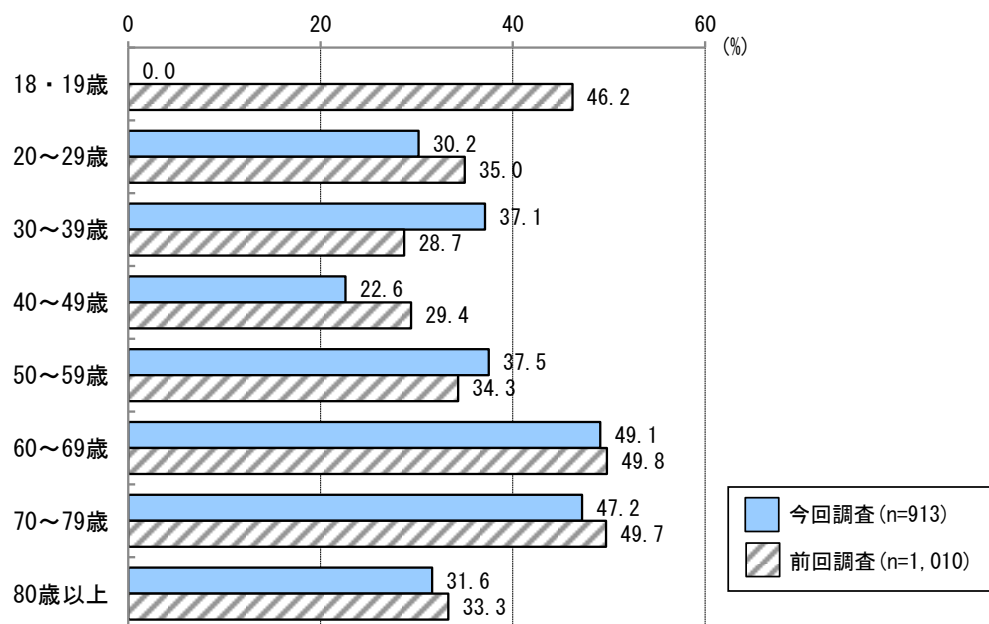
(イ) スポーツの実施状況

週1回以上のスポーツ実施率は、40歳代が22.6%と特に低くなっているものの、30歳代が28.7%から37.1%に、50歳代が34.3%から37.5%と前回調査から改善が見られます。

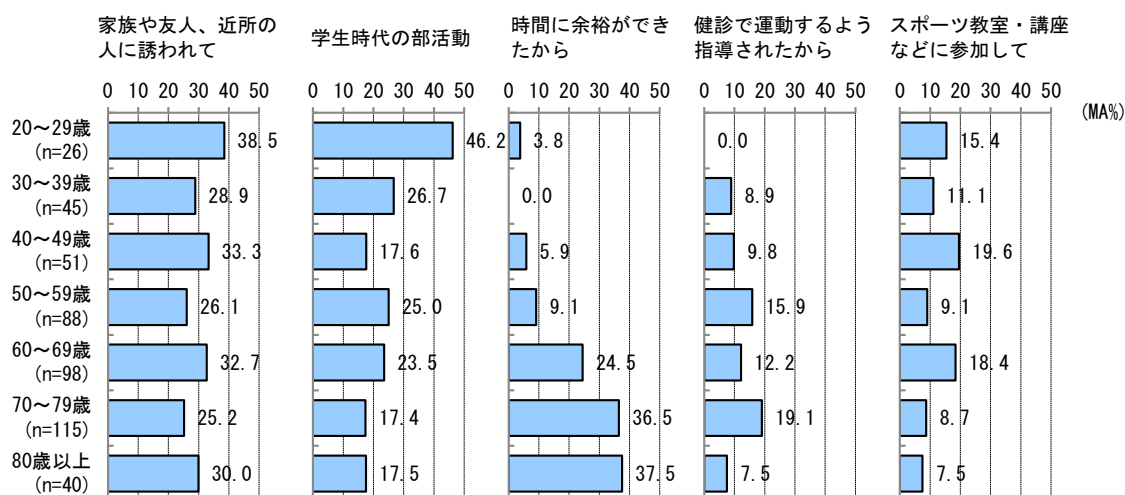
(図1-4)

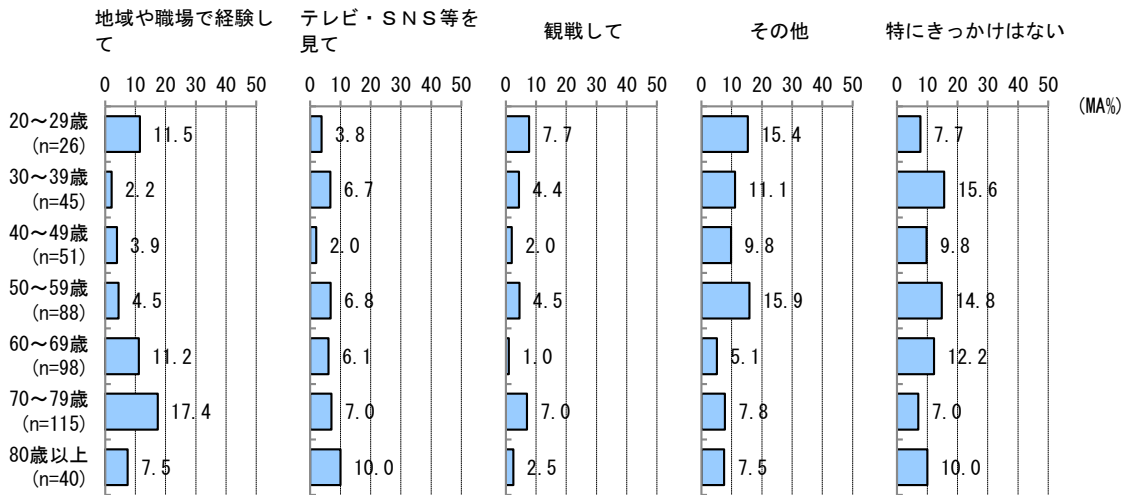
また、スポーツ実施率が低い40歳代で、運動を始めたきっかけは、「家族や友人、近所の人に誘われて」が33.3%と高く、実施率が次に低い80歳以上でも30.0%となっています。(図1-5)

◆図1-4 スポーツの実施頻度(週1日以上)



◆図1-5 運動を始めたきっかけ

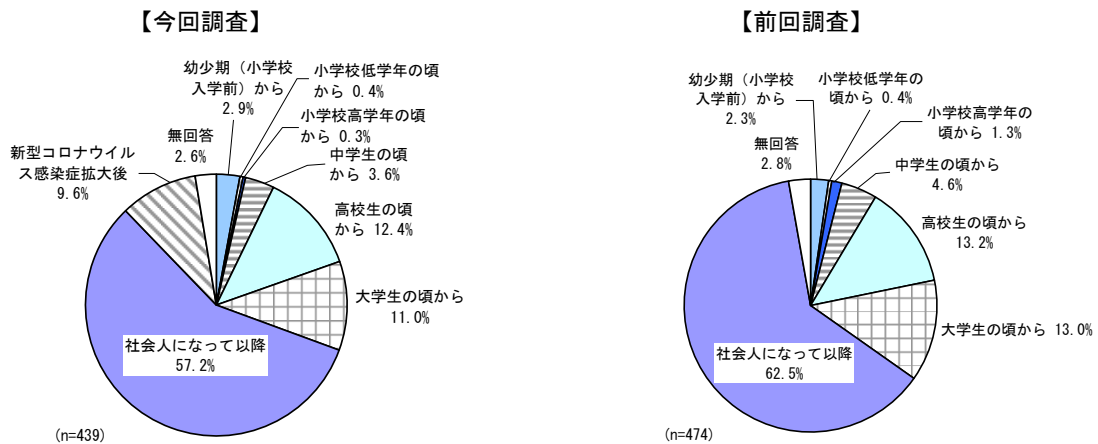




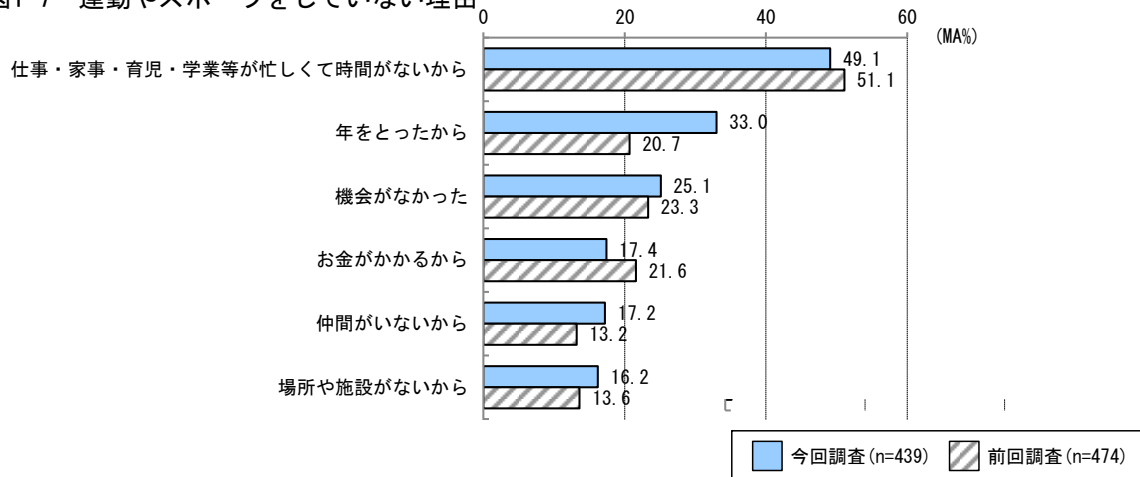
(ウ) スポーツに取り組まない理由

運動やスポーツをしなくなった時期は「社会人になって以降」が57.2%となり（図1-6）、運動やスポーツをしていない理由は、「仕事・家事・育児・学業等が忙しくて時間がないから」（49.1%）が最も多く（図1-7）、特に30・40歳代では7割台を占めています。（図1-8）。

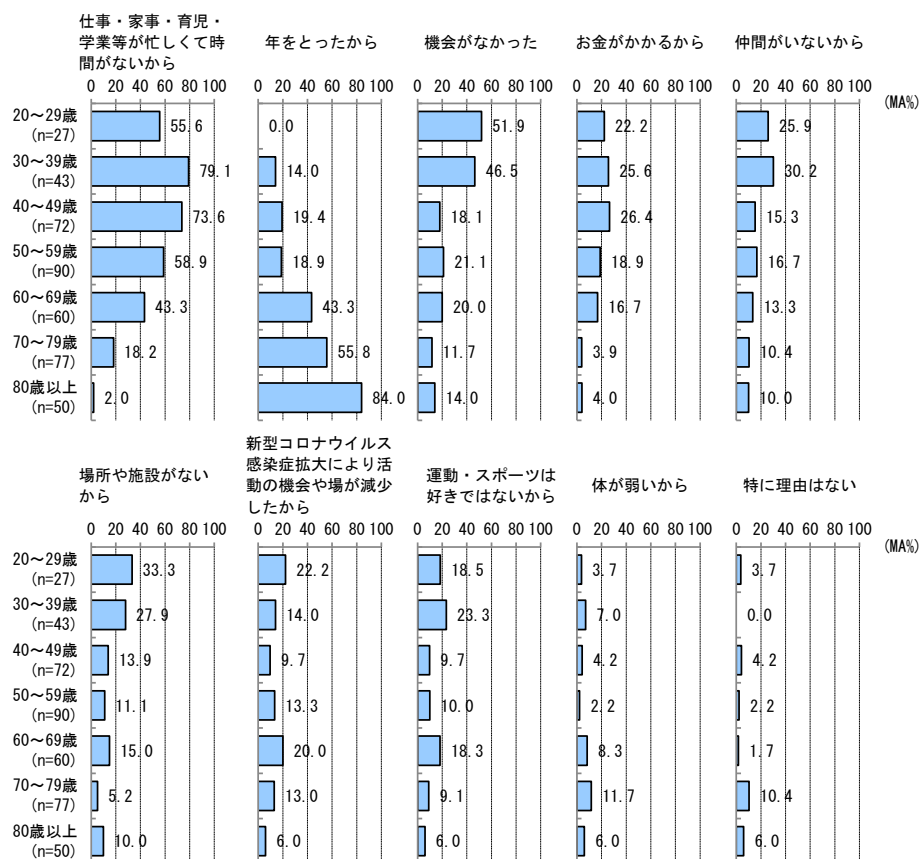
◆図1-6 運動やスポーツをしなくなった時期



◆図1-7 運動やスポーツをしていない理由



◆図1-8 運動やスポーツをしていない理由

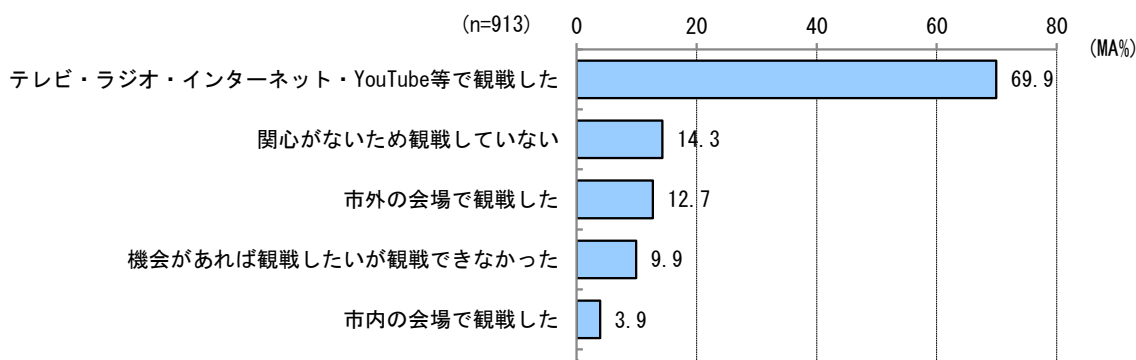


(エ) スポーツの観戦状況

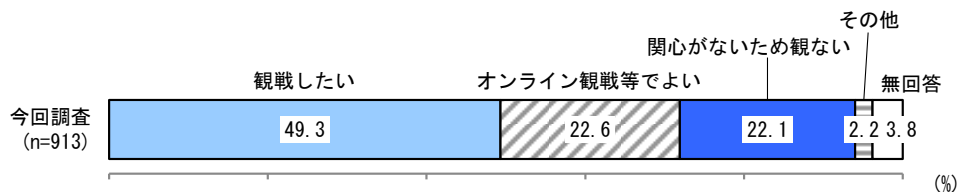
この1年間のスポーツ観戦状況は、「テレビ・ラジオ・インターネット等で観戦した」が69.9%となりました。(図1-9) 一方で、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」)の状況が落ち着いたら開催会場や間近で直接観戦したいとの回答が49.3%と、潜在的な観戦希望が高いことが分かります。(図1-10)。

本市をホームタウンとするFCティアモ枚方、パナソニックパンサーズについては、試合をともに観戦したことがないが84.3%と高い結果となりました。(図1-11) 観戦したくなる条件として、「市民観戦無料招待デー」47.9%や「交通アクセスの良さ」44.6% 「チケットの割引の充実」33.7%、「観戦する仲間がいること」が29.4%となりました。(図1-12)

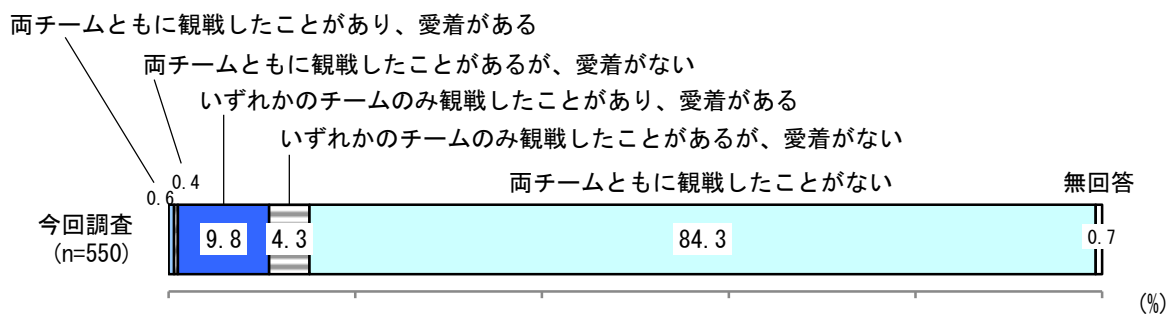
◆図1-9 この1年間のスポーツ観戦状況



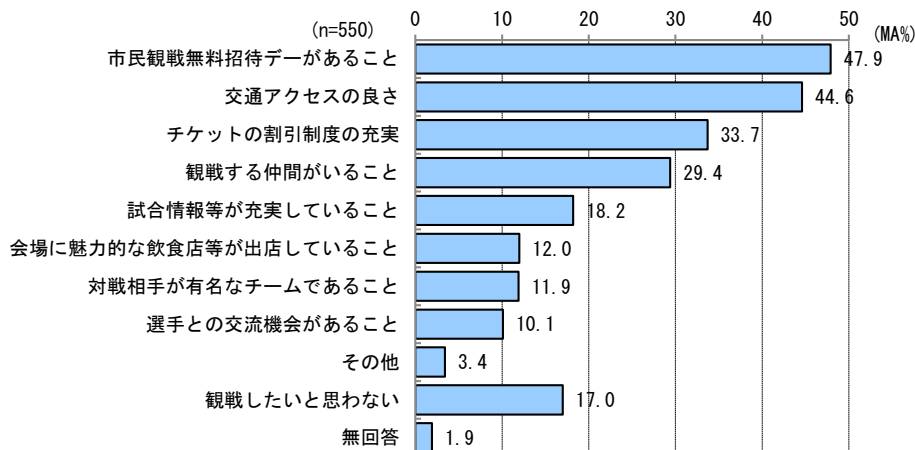
◆図1-10 新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後のプロスポーツ等の直接観戦意向



◆図1-11 FCティアモ枚方、パナソニックパンサーズの観戦経験及び愛着度



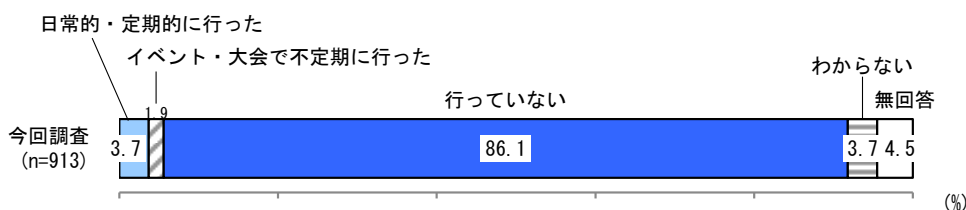
◆図1-12 ホームタウンチームの試合を観戦したくなる条件



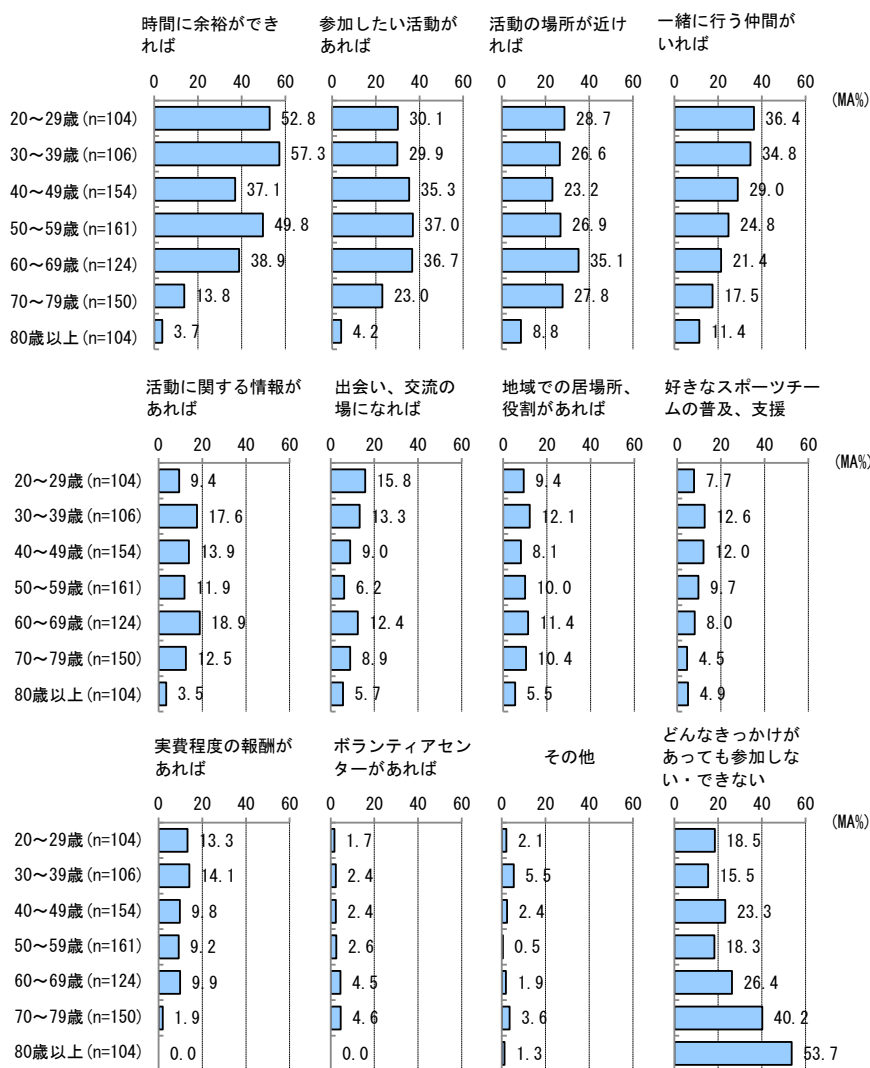
(オ) スポーツボランティア活動の参加状況

この1年間のスポーツボランティア活動について、「行っていない」が86.1%と最も高く（図1-13）、参加したくなるような動機づけとして、「時間に余裕ができれば」の割合は20歳代52.8%及び30歳代57.3%が高く、「参加したい活動があれば」は40歳代35.3%、50歳代37.0%、60歳代36.7%で高く、「活動の場所が近ければ」は60歳代35.1%、また、20歳代・30歳代では「一緒に行く仲間がいれば」も高くなっています。（図1-14）

◆図1-13 スポーツボランティア活動の参加有無



◆図1-14 スポーツボランティア活動に参加・継続のためのきっかけや動機づけ



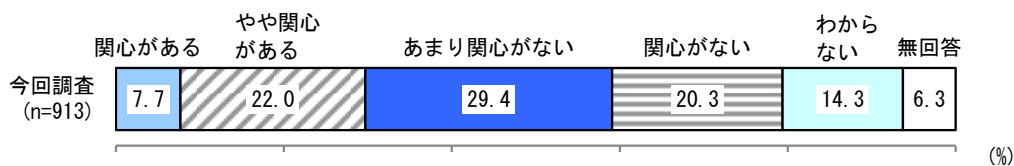
(カ) 障害者スポーツとのかかわり

障害者スポーツに対し関心がある、やや関心がある市民の割合 29.7%に対し、関心がない、あまり関心がない割合は 49.7%となりました。(図 1-15)。

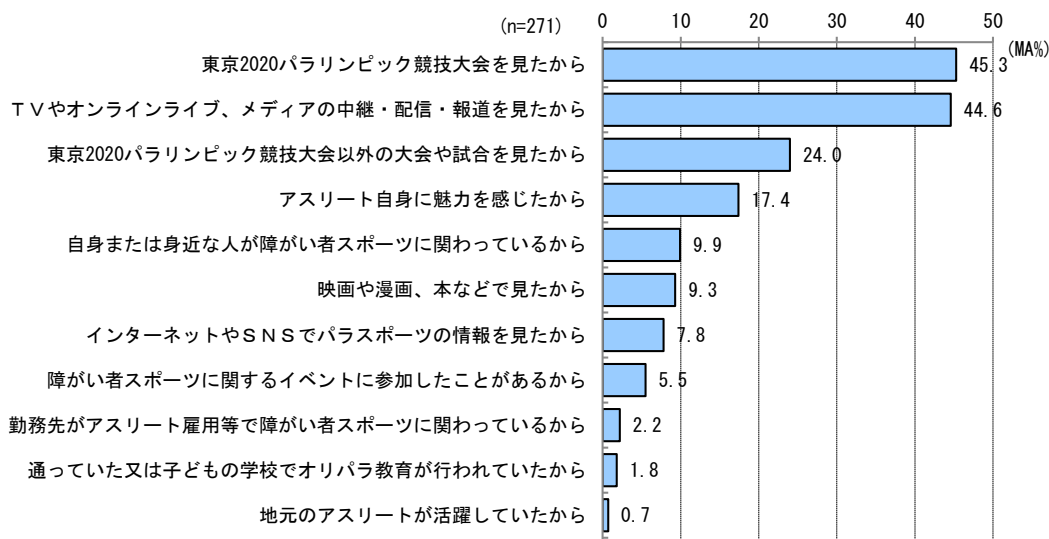
関心を持ったきっかけは、「東京 2020 パラリンピック競技大会を見たから」が 45.3%となっており、東京パラリンピックを通じて関心が高まっていることがわかります。

(図 1-16) その一方で、障害者スポーツを体験したことがないが 91.5%となっています。(図 1-17)

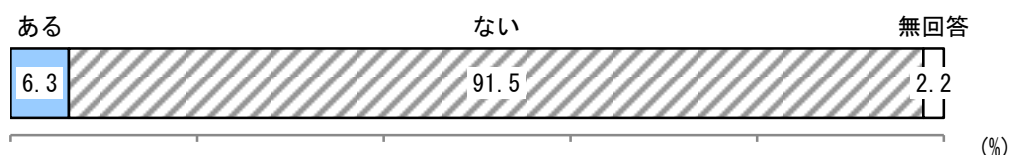
◆図1-15 障害者スポーツへの関心度



◆図1-16 障害者スポーツに関心を持ったきっかけ(抜粋)



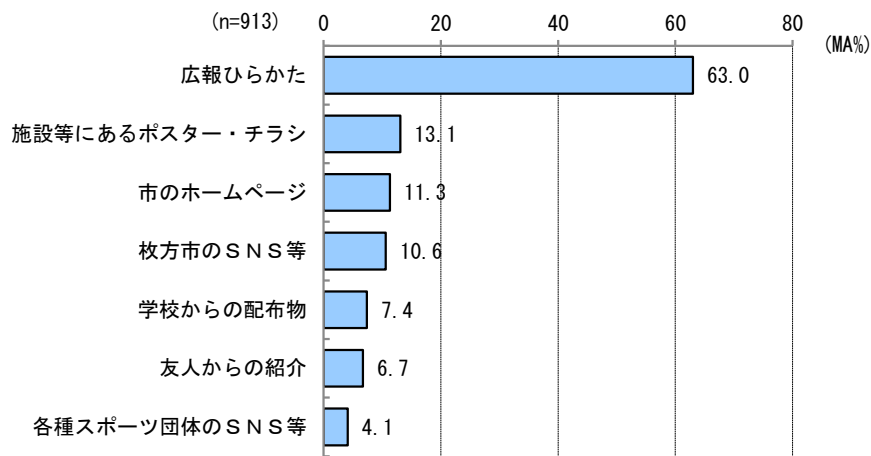
◆図1-17 障害者スポーツを体験したことの有無



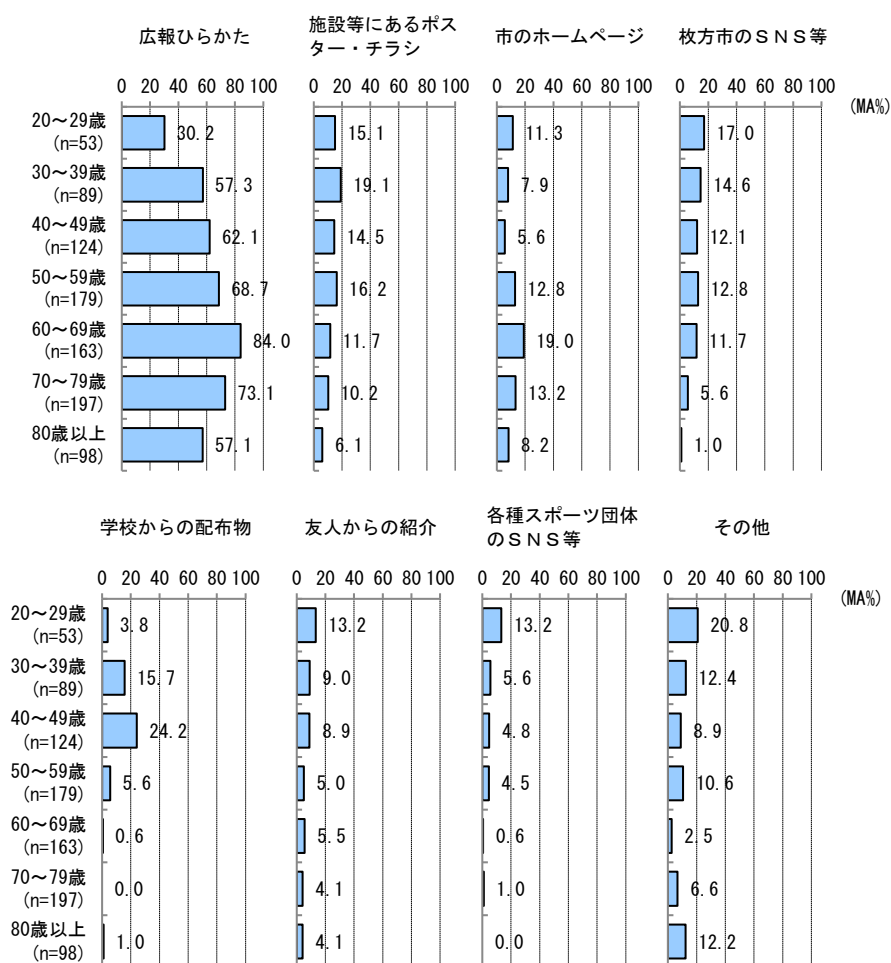
(キ) スポーツに関する情報の入手方法

枚方市のスポーツ情報の入手先で最も多いものは、全体では「広報ひらかた」が63.0%で(図1-18)、20歳代を除くどの世代においても約6割から8割を占める結果となり、次いで「施設等にあるポスター・チラシ」が13.1%、「市のホームページ」が11.3%となっています。(図1-19)

◆図1-18 枚方市のスポーツ情報の入手先



◆図1-19 枚方市のスポーツ情報の入手先(年代別)



②小・中学校におけるスポーツ活動

(ア) 小・中学生の体力の状況

令和3年度運動能力等調査の結果から、本市の小学5年生と中学2年生の種目別の体力測定結果をみると、小学校の児童では、男女ともに50m走において全国平均を上回り、その他の種目では全国平均と同等もしくは下回っています。中学校の生徒では、男子のハンドボール投げにおいて全国平均を上回っていますが、その他の種目では全国平均を下回りました。

また、小学校では全8種目のうち、男子は4種目、女子は6種目で大阪府平均を上回り、中学校では全9種目のうち、男子は7種目、女子は5種目で、大阪府平均を上回っています。(図2-1)

◆図2-1 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

小学校		種目別平均							
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
		Kg	回数	cm	回数	回数	秒	cm	m
5年男子	R3枚方市	15.99	18.81	33.12	37.27	45.33	9.33	150.14	20.58
	R3大阪府	16.07	18.56	33.24	38.56	43.96	9.40	150.82	19.90
	R3全国	16.22	18.90	33.48	40.35	46.83	9.45	151.41	20.58
	R1枚方市	16.26	19.37	31.93	38.84	47.97	9.32	149.61	21.18
5年女子	R3枚方市	15.79	18.03	37.69	35.93	36.77	9.49	144.33	13.20
	R3大阪府	15.89	17.60	37.50	36.73	35.25	9.65	143.74	12.63
	R3全国	16.09	18.08	37.90	38.72	38.15	9.64	145.18	13.30
	R1枚方市	15.88	18.43	36.30	37.53	38.43	9.55	143.17	13.28

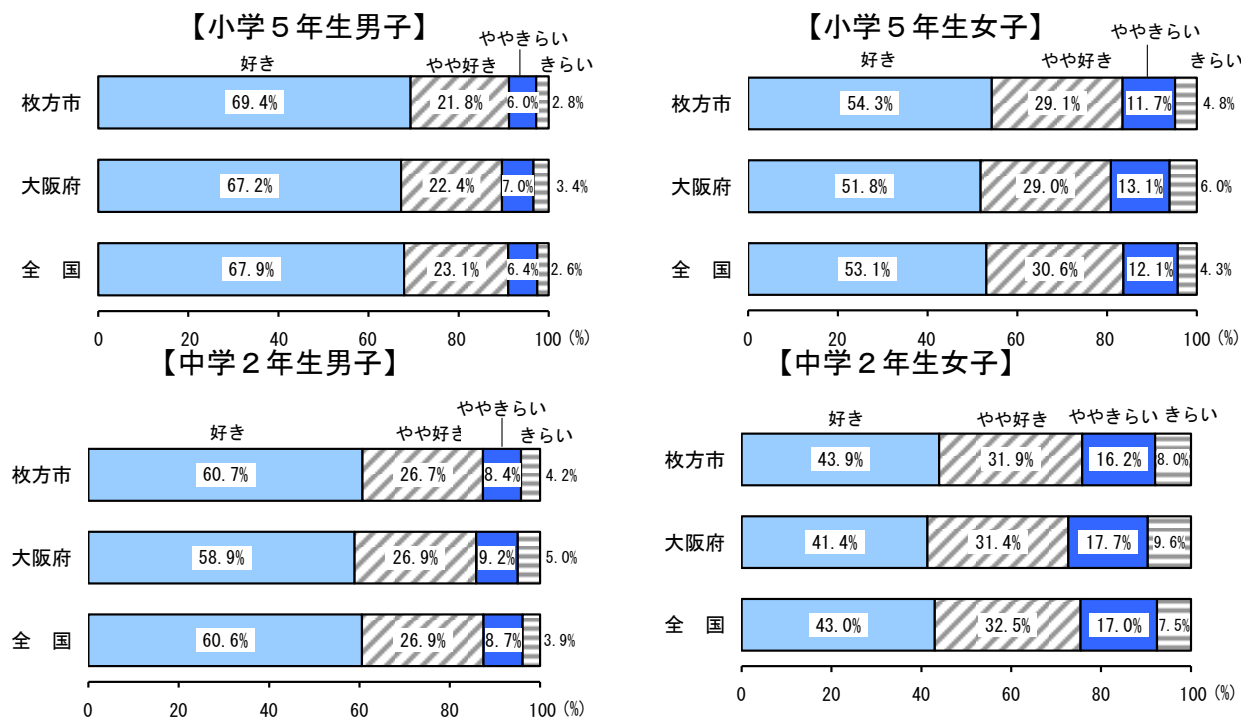
中学校		種目別平均								
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
		Kg	回数	cm	回数	秒	回数	秒	cm	m
2年男子	R3枚方市	28.31	25.86	42.12	50.11	419.07	78.71	8.05	192.34	20.42
	R3大阪府	27.85	25.82	42.10	50.50	420.24	76.61	8.09	192.41	19.56
	R3全国	28.80	25.99	43.67	51.19	406.38	79.88	8.01	196.36	20.31
	R1枚方市	28.32	26.64	43.50	49.88	404.12	85.67	7.98	193.69	21.08
2年女子	R3枚方市	23.33	21.99	44.61	45.08	312.23	52.31	8.89	166.88	12.61
	R3大阪府	22.78	22.15	45.22	45.74	309.19	51.04	8.99	164.06	12.07
	R3全国	23.43	22.32	46.20	46.25	297.62	54.24	8.88	168.15	12.72
	R1枚方市	23.12	22.36	45.13	46.30	287.10	57.75	8.86	167.89	13.03

資料：令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(イ) 小・中学生の運動に関する考え

令和3年度運動能力等調査の結果から、「運動が好きか」の回答をみると、小学校の児童では、「好き」「やや好き」の割合は男子・女子とも、ほぼ全国平均並みとなっています。中学校の生徒では、「好き」「やや好き」の割合は男子は全国平均並みとなっていますが、女子は全国平均をやや下回りました。(図2-2)

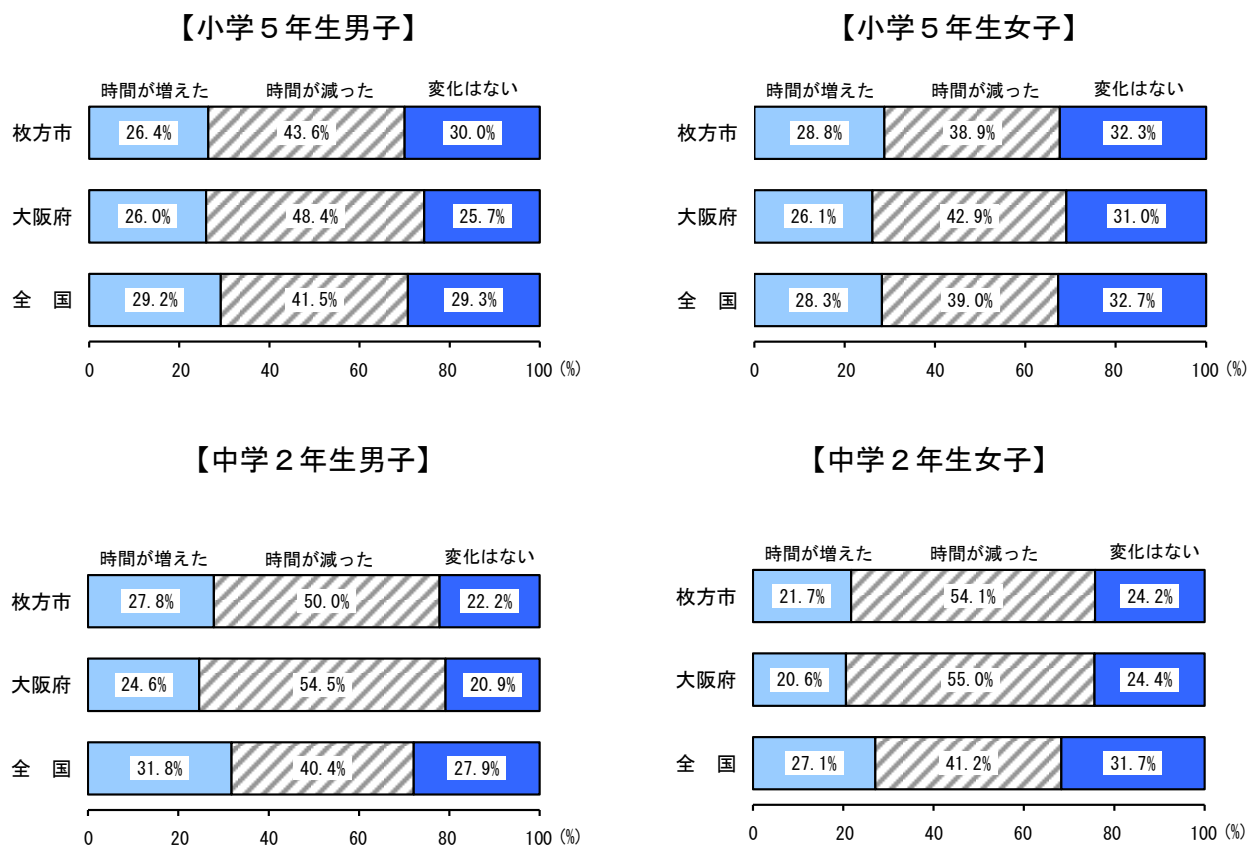
◆図2-2 運動が好き



(ウ) コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間

コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間をみると、「時間が減った」と回答した割合は、小学校では、男子が全国平均を上回り、女子は若干下回っています。中学校においては、男子・女子ともに全国平均を上回り、5割以上が運動やスポーツをする時間が減ったと感じています。(図2-3)

◆図2-3 コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間



資料：令和3年度 全国R3運動能力等調査

③関係団体のスポーツの状況

(ア) (公財)枚方市スポーツ協会の加盟団体、スポーツ少年団の状況

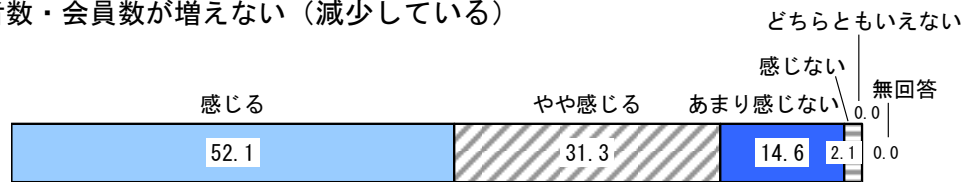
(公財)枚方市スポーツ協会の加盟団体は、現在 27 団体となっています。

また、市のスポーツ少年団は、昭和 38 年に日本スポーツ少年団に登録し、50 年間以上にわたり活動し、現在、野球・サッカー・バレーボール・空手道・日本拳法・少林寺拳法の部会が活発に活動しています。スポーツ少年団の加盟団体数は、令和 5 年 1 月 1 日現在 45 団体で、団員数は 857 人となっています。

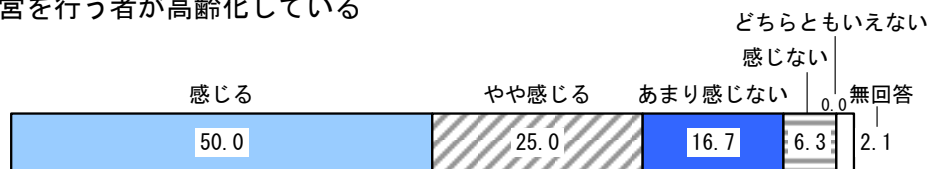
これら関係団体を対象としたアンケート調査結果では、少子・高齢化を背景に、登録者数・会員数が増えない（減少している）と感じる、やや感じるが 83.4%や団体運営を行う者が高齢化していると感じる、やや感じるが 75.0%、団体の認知度が上がらないと感じる、やや感じるが 48.0%などの運営上の問題を抱えています。（図 3—1）

◆図 3—1 活動を通して感じていること(団体の運営について)

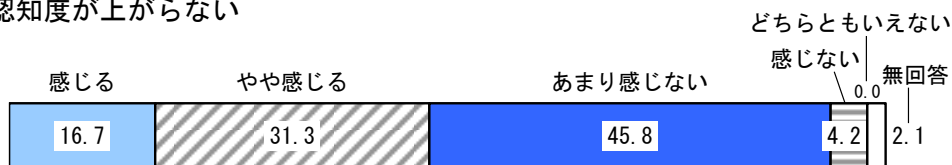
○登録者数・会員数が増えない（減少している）



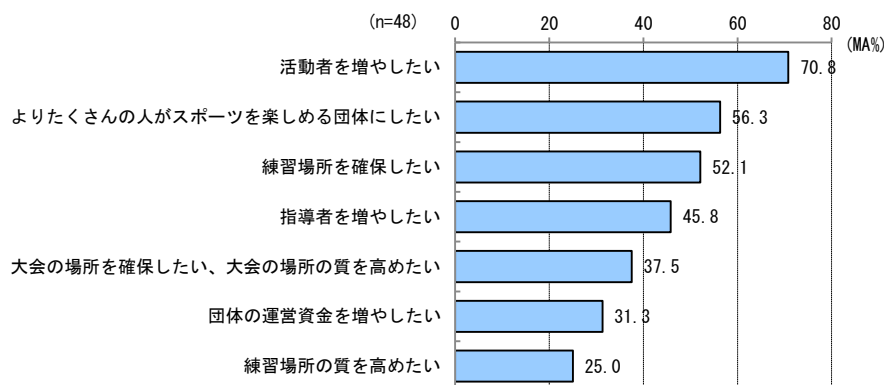
○団体運営を行う者が高齢化している



○団体の認知度が上がらない



◆図3-2 今後の団体の運営・活動についての考え(抜粋)



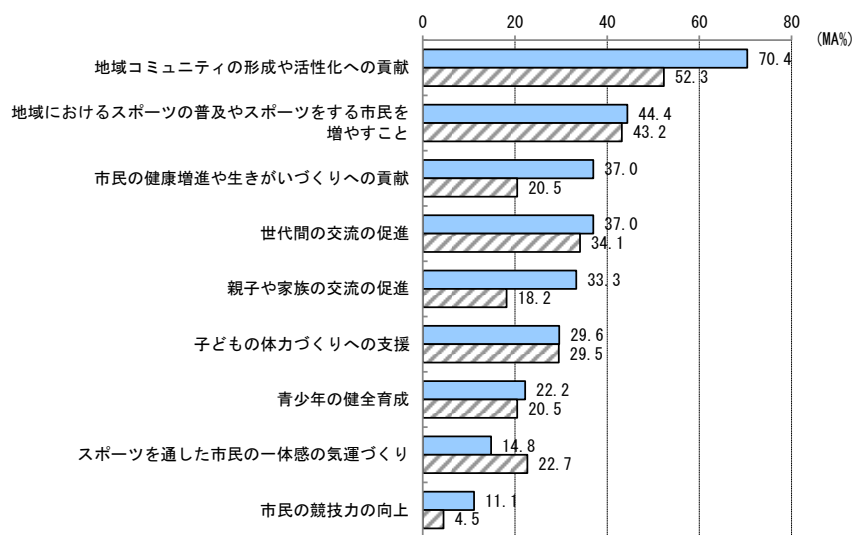
(イ) スポーツ推進委員の状況

スポーツ推進委員は現在48名、校区コミュニティ協議会（地域）から推薦を受けた方を中心にスポーツ団体からの推薦や学校教職員などで構成されています。

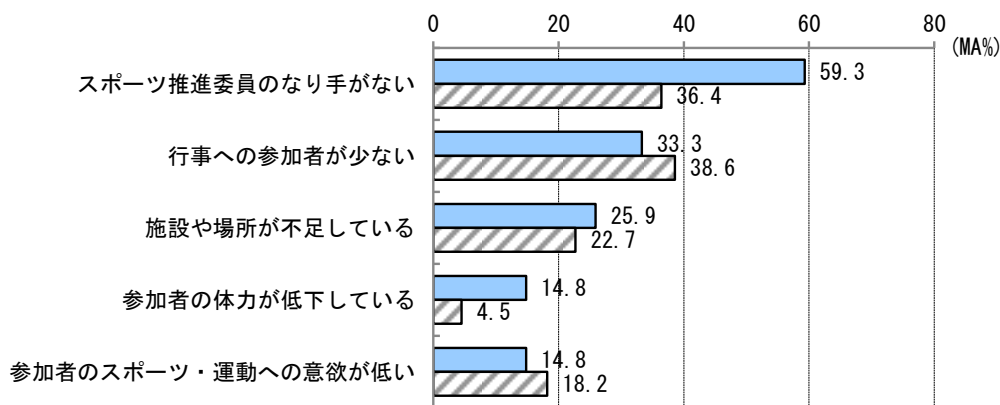
推進委員を対象としたアンケート調査結果では、推進委員としてのやりがいについて、「地域コミュニティの形成や活性化への貢献」70.4%をはじめ、「地域におけるスポーツの普及やスポーツをする市民を増やすこと」44.4%や「市民の健康増進や生きがいづくりへの貢献」37.0%などとなっています。（図3-3）

また、一方で悩みや課題としては、「スポーツ推進委員のなり手がいない」が59.3%となり（図3-4）、さらに推進委員としての活動の継続意向をみると、適当な後任者がいれば辞めたいが40.7%と最も多くなっており、推進委員のなり手がいないことが課題となっています。（図3-5）

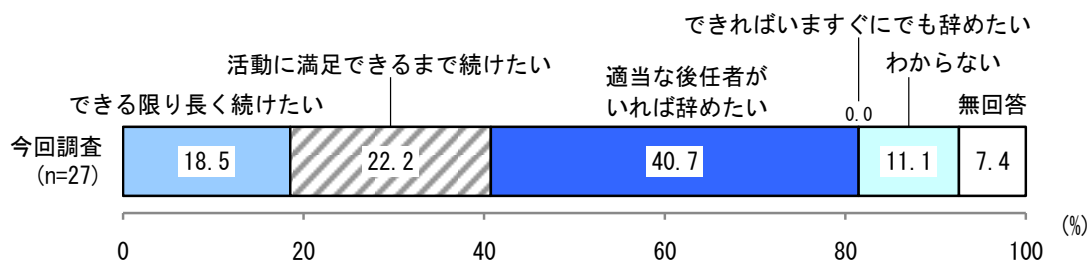
◆図3-3 スポーツ推進委員としてのやりがい(抜粋)



◆図3-4 スポーツ推進委員としての悩みや課題(抜粋)



◆図3-5 スポーツ推進委員としての活動の継続意向



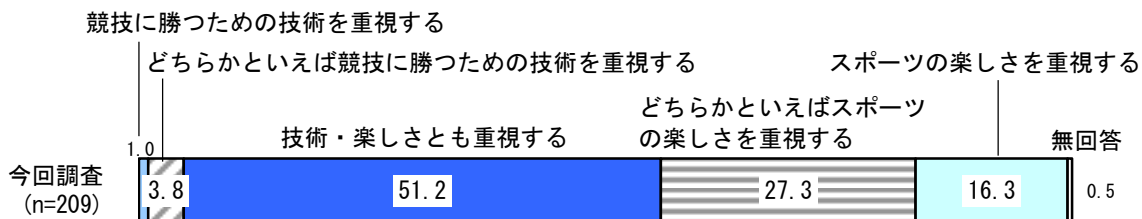
④スポーツの指導者の状況

市内在住のスポーツ・部活動指導者を対象したアンケート調査結果では、指導方法に対する考えとして、「技術・楽しさとも重視する」が51.2%を占め、また「スポーツの楽しさを重視する」と「どちらかといえばスポーツの楽しさを重視する」が43.6%となっており、本来スポーツが持つ「楽しみ」といった要素を意識して指導を行っている様子がうかがえます。(図4-1)

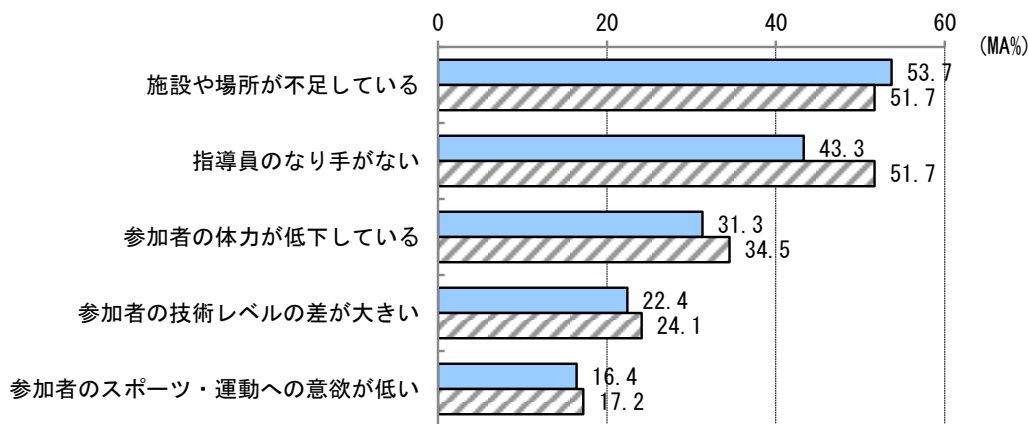
しかし、指導にあたって、「施設や場所が不足している」53.7%や「指導員のなり手がいない」43.3%のほか(図4-2)、指導者自身に関しても「体力面に不安がある」32.8%や「指導の時間が十分に取れない」23.9%、などの問題を抱えながら指導を行っています。(図4-3)

また、中学校の部活動顧問の回答では、運動部での指導上の問題として、「校務が忙しくて思うように指導できない」77.2%や「土日・祝の勤務が多い」62.5%、「自分の専門的指導力の不足」43.4%などが高くなっています。(図4-4)

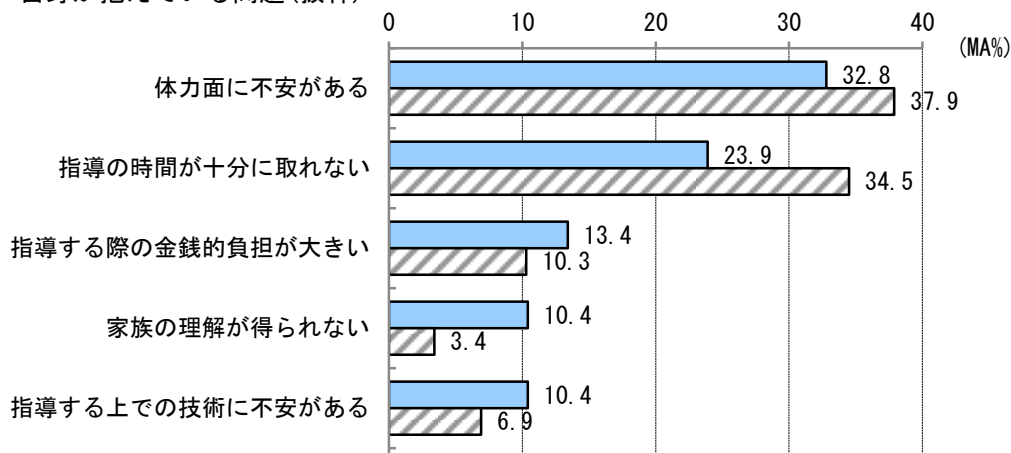
◆図4-1 指導方法に対する考え方



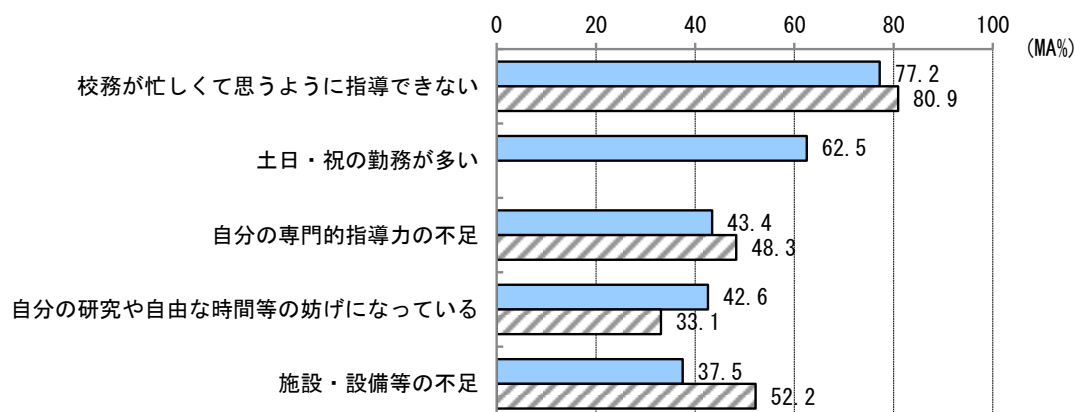
◆図4-2 指導を行う際の問題(抜粋)



◆図4-3 自身が抱えている問題(抜粋)



◆図4-4 運動部で指導する際に問題・課題となっていること(抜粋)



4. これまでの主な取組と課題

現行計画では、庁内の各所管部門が実施している事業について、計画の具体的施策に関連する事業を設定し、毎年「計画関連事業」として点検・評価し、進行管理を行っています。4つの取組課題ごとに、毎年の進行管理より抽出された主な計画関連事業と施策の方向に係る主な課題を記載しています。

取組課題	健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進	
	施策の方向	スポーツに気軽に親しめる環境づくり スポーツを通じた健康づくり

《主な計画関連事業》

- ・ ひらかたラグビーカーニバル
- ・ 健康ウォーキングイベント
- ・ 新春走ろうかい
- ・ 統合型地域スポーツクラブによるスポーツ教室の開催
- ・ インストラクターボランティア基礎講座

《主な課題》

- ・ スポーツ教室参加者等からの意見を反映させた満足度の高い教室の実施
- ・ 参加者の高齢化の課題や、障害のある児童の参加
- ・ コロナ禍に対応したスポーツ活動の実施
- ・ 夜間・休日のスポーツ教室の充実やスポーツ施設への保育機能の提供

取組課題	子どものスポーツ活動の充実	
	施策の方向	子どもがスポーツを楽しむための条件整備

《主な計画関連事業》

- ・ 枚方子どもいきいき広場事業
- ・ ひらかたラグビーカーニバル
- ・ 学校キャンプ支援事業
- ・ 枚方市立中学校部活動指導協力者派遣事業
- ・ FCティアモによるサッカー教室
- ・ 各学校の体力向上推進計画に基づく体力向上

《主な課題》

- ・ 地域でのスポーツ・レクリエーション活動の充実及び市民相互の交流
- ・ 市立中学校部活動指導協力者の派遣における中学校や教育委員会等、関係者との連携
- ・ 幼児期の子どもを対象とした取組及び親子で参加できるイベントの実施
- ・ 「体力向上推進プラン」に基づく各学校の状況に応じた子どもの体力増進

取組課題	多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実	
	施策の方向	地域スポーツの充実 障害者のスポーツの促進 スポーツ資源の充実と活用

《主な計画関連事業》

- ・ スポーツ推進委員関係事務
- ・ 障害者スポーツ講習会
- ・ 交通手段の支援
- ・ スポーツプログラム提供事業
- ・ ジュニアスポーツスクールの開催
- ・ ふれあいスポーツ交流会

《主な課題》

- ・ スポーツ推進委員による地域スポーツの充実とその活動支援
- ・ 障害者のスポーツ大会への参加支援の継続実施
- ・ 指定管理施設等を含め、各施設の特性に沿ったスポーツ事業の充実

取組課題	スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化	
	施策の方向	プロスポーツとの交流促進

《主な計画関連事業》

- ・ パナソニック・パンサーズジュニア&親子バレーボール体験教室
- ・ プロスポーツ交流促進
- ・ 民間スポーツ施設開放事業
- ・ 総合型地域スポーツクラブ活動支援
- ・ インストラクター・ボランティア基礎養成講座フォローアップ研修

《主な課題》

- ・ トップアスリートとの交流の機会の拡充
- ・ 地元のアスリートや企業と連携したスポーツ指導者の育成

5. 後期に向けた課題整理

計画策定からこれまでの間の社会情勢、スポーツを取り巻く環境の変化や、アンケート結果を踏まえるとともに、各所管部門で実施してきた計画関連事業における課題などを整理し、後期に向けて、本市が考慮すべき課題を以下のとおり取組課題ごとに整理するものとします。

取組課題 健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進

■ ライフステージに応じたスポーツに関わる機会の充実

スポーツを楽しむ心身の状況や身体能力は様々であることを踏まえ、それぞれのライフスタイルや、年齢などのライフステージ、ニーズに対応したスポーツの振興が課題となっています。

そのために、(公財)枚方市スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、民間企業などが主催するスポーツ教室や各種イベントの開催を促進し、すべての市民が気軽にスポーツに取り組めるよう、機会を提供していくことが必要です。

■ コロナの拡大を契機とした、スポーツ活動の変化への対応

コロナの拡大を背景に、中長期にわたりコロナ対策と向き合う中で、外出自粛等による運動不足から、子どもの健全な育成への影響をはじめ、中高年齢者の生活習慣病等の発症や体力・生活機能の低下リスクの高まりなど、身体的及び精神的な健康を脅かす健康二次被害などが懸念されてきました。

このため、ウイズコロナやアフターコロナ、さらには新たな感染症の拡大といった状況を踏まえつつ継続してスポーツを実施できるよう、身近な場所である地域や、自宅等でスポーツを実施できる環境づくりが必要です。

■ 安全・安心に取り組めるスポーツ環境づくり

近年、スポーツ指導者による暴力やハラスメントをはじめ、違法薬物の使用などアスリート等の倫理意識の欠如、アスリートに対するSNS等での誹謗中傷、人種差別などの問題が発生しています。また、アスリートのほか、スポーツに取り組む市民に対する不適切な指導等により、本人が望まない理由でスポーツに親しむ機会を失ったり制限されたりすることがないよう、さらに事故や怪我の発生予防など、安全・安心に取り組めるスポーツ環境づくりが求められています。

取組課題 子どものスポーツ活動の充実

■子どものスポーツ環境の充実

幼児期からの遊びや運動体験は、公正さと規律を尊ぶ態度や自分に打ち勝つ心を養うなど人間形成に重要な役割を果たし、動ける身体の基本をつくり、生涯にわたり、健康で生き生きとした生活を送る基礎となる点で重要です。そのため、幼少期からのスポーツ体験のうち、身近な場所でスポーツに触れる機会を確保・充実し、

一人一人のニーズに合わせたスポーツをするための場、プログラム、指導者等の環境の充実が課題です。

■学校部活動の充実

国においては、2023年度から2025年度までの3年間を改革推進期間と位置付け、休日の学校部活動の段階的な地域連携・地域移行を進め、「地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指す」とガイドラインで公表されました。

地域移行に向けた環境整備において、指導者の養成・確保など受け皿となる地域の体制づくりに取り組み、生徒が、継続的にスポーツ活動に親しみ、スポーツ技術や体力の向上を図ることができる環境づくりが必要です。

取組課題 多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実

■地域スポーツの充実

地域においてスポーツ活動を推進していくことは、市民のスポーツ活動の習慣化につながるだけでなく、人と人との交流を促進し、地域の活力を育んでいくことにもつながります。

そのためには、(公財)枚方市スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ関係NPO法人、事業者等と様々な活動を展開し、本市の地域スポーツの推進への取組を進めることが求められます。

■障害者スポーツへの理解・参加の促進

東京2020パラリンピック競技大会の開催を機に、パラスポーツに注目が集まり、関心が高まりました。しかし、障害者スポーツに対する認知度や、競技の実施率は低い状況であります。

障害者が地域など身近な場所で、スポーツに親しめる環境づくりが必要です。

また、障害者スポーツに実際に見て、触れる機会をつくり、情報を発信していくことで、障害者への理解促進につなげていくことが求められています。

■多様な運動能力やニーズに対応するスポーツ志向の多様化への対応

人々のライフスタイルや価値観が多様化する中で、運動・スポーツ活動の多様化も進んでいます。性別、年齢、障害の有無、地域事情等にかかわらず、全ての人が気軽にスポーツを行う環境づくりが必要です。

また、健康志向の高まりなどから、ウォーキングやジョギング、軽い体操など、一人で気軽にできる運動を行う人が増えているほか、活動場所や時間帯、種目なども多様化が進み、スポーツを行う機会の充実やより身近な場所での環境整備が求められています。

東京2020オリンピックでは、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンなどの5競技が新たに追加・実施され、日本では若年層の選手の活躍により、新たなスポーツに人々の関心が集まりました。また、2024年のパリ五輪ではブレイキン(ブレイクダンス)が、競技種目として追加されることが決まり、さらに注目されることとなります。

従来の「体育」の概念から「楽しむスポーツ」、さらには「遊びの要素を取り入れたアクティビティ」をスポーツと捉えるものとして、アーバンスポーツが推進されています。このように、スポーツも時代とともに変化することが求められ、多様化するニーズに対応していくことが必要です。

取組課題 スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化

■ホームタウンのスポーツチームを通じた地域の活性化を図る取組

本市をホームタウンとするFCティアモ枚方は令和2年12月にJFLに昇格し、パナソニックパンサーズは、平成30年に3度目となる3冠を達成しました。こうしたチームの活躍は、ホームタウンのスポーツチームへの親しみの醸成や、試合を見て応援することで、感動の共有につながるため、チームの活動と連動し、家族や地域での連帯感を育む機会づくりなどが課題となっています。

また、ホームタウンのスポーツチームとの協働により、地域のスポーツ活動の活性化を図る取組を推進し、市民のスポーツに対する関心を高め、ひいては“観る”スポーツ人口の拡大、まちの魅力向上や活性化とともに、にぎわいの創出につなげていくことが必要です。

令和2年度にスポーツ振興課が観光にぎわい部の移管事務となったことにもない、スポーツをにぎわい創出のコンテンツとするスポーツツーリズムの推進や2025年に開催される大阪・関西万博の機運醸成を見据えたスポーツの取組など、多様な主体と協働し、スポーツの魅力向上を図ることが求められます。

■ビッグイベント等の開催を契機とした“観る”スポーツへの機運を継続するための取組

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、スポーツとのかかわり方のうち、観るスポーツへの関心が高まりました。

誰もが生涯にわたりスポーツを楽しむ社会をつくるためには、“する”スポーツだけでなく、“観る”スポーツを促進することが必要です。

スポーツとのかかわり方で“観る”ことは誰でも気軽に取り組み、そこからスポーツ活動の裾野を広げられる可能性があります。特に高いレベルのパフォーマンスは、観る人に感動を与え、スポーツの魅力を感じることで、スポーツへの関心や意欲を高めることにつながります。より多くの市民に競技会場で実際にスポーツイベントを観戦してもらえよう、様々なスポーツへの市民の関心を高めながら、スポーツ観戦の魅力を発信していくことが必要です。

第3章 枚方市のスポーツ推進に向けた取組

本市においては、「枚方市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツに係る施策を展開しています。市民ニーズの変化やコロナの影響による市民スポーツ活動の変化の中で施策の洗い出し・改善点の検証を行い、社会情勢の変化やスポーツをめぐる環境を踏まえ、後期に取り組むべき方向を定めます。

1 基本理念

だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康を増進し、人と人との交流を深めることを支える



2 後期に取り組むべき施策

現行計画の取組課題並びに施策の方向を前提に、後期計画期間において取り組むべき施策を次のとおり設定し、庁内所管部門及びスポーツ関係団体等と連携し、スポーツ実施率の向上に向けて、取組みを推進していきます。

《現行計画》



《後期で追加すべき主な事項》

取組課題	健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進	
	施策の方向	スポーツに気軽に親しめる環境づくり

スポーツにおけるDXの推進

スポーツ界におけるDXの動向を踏まえ、コロナ禍でのオンラインによるスポーツイベントの実施や、VR・ARなど先進的なデジタル技術を活用した新たなスポーツ実施機会の創出に努めます。

スポーツの実施における安全・安心の確保

感染症対策のほか、スポーツによるけがや事故の予防を推進していくとともに、スポーツ指導における暴力行為やハラスメント等を無くし、市民が安全・安心に、楽しくスポーツを実施できるような環境づくりに努めます。

取組課題	多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実	
	施策の方向	地域スポーツの充実

地域におけるスポーツ関係団体との連携・支援

スポーツ関係団体は、各種競技大会への参加やスポーツ教室の開催など、様々な活動を通じ、スポーツの普及に努めています。しかしながら、近年は高齢化を背景に、登録会員数、競技人口の減少、指導者不足など、運営上の様々な問題を抱えています。

今後、これらの問題によるスポーツ活動への影響が懸念されることから、関係団体との連携と支援を一層強化し、市民のスポーツ活動への参加機会の充実に図ります。

また、関係団体等の意見等を聴取し、中学校の部活動の地域移行が円滑に進むよう検討します。

取組課題	多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実	
	施策の方向	障害者のスポーツの促進

障害の有無に関わらずともにスポーツを楽しむ環境整備

障害者スポーツを身近な場所で実施できる環境づくりや障害者スポーツの情報発信を行うことで、障害者への理解促進につなげます。

また、障害の有無、また、年齢や性別に関わらず、誰もが一緒に楽しめるスポーツへの参加機会の充実に図ります。

取組課題	スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化
施策の方向	プロスポーツとの交流促進

ホームタウンのスポーツチームとの連携による地域活性化

本市では「FCティアモ枚方」「パナソニックパンサーズ」と協定を締結し、試合への市民無料招待や幼稚園・保育所(園)や小学校でのスポーツ教室の開催など、地域に根差した活動を実施しています。このホームタウンのスポーツチームを重要な地域資源と捉え、市民が積極的に関わることができる仕組みづくりを進めます。これにより、地域住民の地域に対する誇り(愛着)の醸成や賑わいの創出、市外のファンが訪れることによる経済効果など、地域活性化につながる様々な効果が期待できます。

“観る”スポーツの推進

ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピックパラリンピックなどを通じて“観る”スポーツへの関心が高まりました。スポーツを“観る”ことにより、人々に夢と感動を与えるとともに、スポーツに触れる機会が増し、スポーツを身近に感じることで、スポーツ習慣の醸成への足掛かりにつながるなどの効果があります。そのため市民に様々なスポーツを“観る”機会の充実や、トップアスリートと触れ合える事業などに取り組んでいきます。

■あしがき

現行計画の推進期間の平成29年度から令和9年度の間年である令和4年度において計画の中間評価を実施しました。

また、策定後、計画の進捗状況や社会情勢は大きく変化しており、本市のスポーツ活動の実情に対応した内容となるよう、令和5年度に中間評価報告書をもとに現行計画を改訂する予定としています。

引き続き、だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康増進し、人と人との交流を深めることを支えるために、(公財)枚方市スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員などの地域の活動団体、学校・園、スポーツチーム、民間事業者など、様々な関係者の皆様の理解と協力が不可欠です。

そして、各所管部署の計画関連事業の進捗状況を点検・評価し、その結果を市民のみなさんに公表しながら、情報を共有し、より良い施策に活かした取組を行います。